

法政大学田中優子総長の小国来訪 長岡での講演を機会に

高橋 実

去る五月十三日長岡で講演される法政大学田中優子総長が小国を訪問した。法政大学新潟県校友会の招きにより長岡で講演する機会に祖父の出身地を見てみたいということだった。長岡観光コンベンション協会金垣孝二氏の仲介で高橋実が案内役を買って出た。当日まで送られてきた田中家の略系図は次のようなものだった。

田中家略系図

曾祖父 田中（ ）名前不明 上小国村
紙を製造していた？

祖父 田中清松（上小国村生まれ）
6人兄弟（男3人 女3人）の末っ子
明治末頃東京に出て「いわし屋」の番
頭頭となる。昭和元年死去。

祖母 田中キン（栃木県生まれ 旧姓若井
兄弟 田中富次郎（東京へ出て、油紙
屋を始める。後につぶれる）田中栄次
郎（東京へ出て、上野で医療器械店「い
わし屋」を始める

父 田中 旭（大正 11 1922）年 東京の
根津生まれ 兄弟 6人 田中蓮（1911）
田中法（1914）上小国村大工中村氏と
結婚。後に東京に出る 田中徳之助
（1919）田中たい子（不明）田中糸
（1926）

娘 田中優子

十時四十分小国支所に到着。着物姿の田中総長以下、総長秘書の田中氏、法政長岡きずな会の山崎和夫氏、運転手の金垣氏と一緒に同乗させてもらう。田中総長の実家が紙漉きをしていたということで山口資料館（明治のころ和紙伝習所を開いた）を訪問する。山口権三郎の業績を映像で見て、車はそのまま川西ルートで猿橋から小栗山・森光を走り、原から諏訪井、太郎丸をまわり、昼食会場「ふじ井」にて蕎麦をいただく。田中姓は森光に多く、森光にルーツがあるのではと推測されるが確かな証拠はない。時間があれば真福寺木喰仁王門など案内できたのだが、残念十二時半支所駐車場で別れる。

高橋は自宅に戻り、妻の運転する車で中村官氏・保坂利雄氏の二人を乗せる。この二人は田中家の小国でのルーツ探しをしてくださった。残念ながらこの日まで田中家のルーツは見つからなかった。三人で長岡グランドホテルの講演会場に向かう。二時からの講演は、二百名入る会場はでいっぱい。演題は「グローバリゼーションと江戸時代」

氏はまず祖父の出身地小国の話で始まる。祖父清松は早く亡くなり、祖父の兄弟富次郎が東京に出て油紙屋を始めたという。東京生まれの父上は、本屋なら本が読めるだろうと本屋に勤めたが重たい本の運搬ばかりさせられたという。与えられた仕事は手放すなという父の教えが自分の中に生きていと話される。法政大学を選んだ理由は単なる研究者のみでなく、評論家のような幅広い学者集団のいる大学だったからだという。大学の多様性を強調された。大学時代益田勝美・広末保と言った先生から影響を受けて江戸文化研究に進んだ。

他に佐渡の文弥人形や鬼太鼓、「願」という地名のこと、さらに「布」への興味、法政大学の志願者12万人を超えた話、江戸期の黄表紙などの挿絵を映像で紹介、当時いかにグローバリゼーションが広がったかを強調された。講演の中で、越後塩沢の鈴木牧之が天保年間に出版した「北越雪譜」を度々引用された。この本で「縮」を織る女たちがいかに苦労したかつぶさに書かれているという。二時間の

講演時間を飽きることなく一気に話された。

四時半会場を変えて懇親会へ。小国のテーブルが用意されていた。ここに田中カーサービスの田中克己・田中波江夫妻、佐々木昌敏・藤枝夫妻、小島庚市氏、保坂利雄氏、中村官氏、高橋実、加えて金垣孝二氏、山崎和夫氏とテーブルを囲み、それぞれグループごとに田中先生を囲んでの記念撮影があった。

ここで田中波江さんから驚くべきことを聞かされた。不明だった田中総長の祖父田中清松氏の出身地が森光であることが確定したのである。田中家のルーツ探しを依頼されていた小島庚市氏や田中カーサービスの田中克己氏が昭和二十年代の森光集落の家の配置図を披露された。奥様の田中波江さんは旧姓小島で森光出身、古地図には、すぐ近くに田中総長の祖父清松氏の屋号「とみぞう」世帯主田中富次郎の名前が載っていた。波江さんの父親の小島益平氏は清松と子供の頃遊んだという。屋号富蔵家は、今は森光にないが、屋号「とみぞう」戸主田中富次郎という人は清松の兄弟で東京に出て油紙屋を開いていたということだった。これは田中総長から提供された情報と一致した。さらに明治二十五年田中清松が小島友松に宛てた「土地売渡証」まで持っておられた。森光の屋号「上のさつえん」が波江さんの実家、友松は小島家の先祖の名前という。これをもっと早く知っていたら、その家の跡に田中総長を案内できたのに。話によると森光の小島益平さん（上のさつえん）が富次郎さんのことを知っていて、清松さんの田んぼを購入したのだという。富蔵家はしばらく空き家になっていて東京から時々清松氏の兄弟の方か泊まりに来ていたという。系図に出ている紀さんは森光へ疎開していたという。この事実を会場の田中総長に伝える。いつか田中総長に小国に来てもらい、ぜひご講演の機会を持ちたいものと思う。田中総長がこれだけ小国にこだわるのは、自然豊かな小国が田中家のルーツであることが誇りに思っているせいである。よそから教えられた小国のすばらしさ。

帰りの車の中では、しきりにこの話題で盛り上がり、外は雨だったが、心は晴れ晴れしていた。